

1 学習に取り組んでいる主な分野

<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 海洋	<input type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ()	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、校区を取り巻く森林と有明海の関わりを学習しながら、「森・川・海」のつながりを実感する実践を進めている。自分たちの地域が川で海洋につながることを教材として、課題解決を図る学習を展開し、海洋教育を推進している。関連するSDGsの目標14・15を中心に、総合的な学習の時間において、海洋教育の4つの視点「海に親しむ・海を知る・海を守る・海を活用する」を系統的に仕組んだ活動計画を作成し、実施している。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ 【5年生】山・川・海とのつながりの学習と環境保全

5年生の子どもたちはこれまで、校区を流れる野間川には様々な生き物が生息していることを学習してきた。そこで水のきれいさに着目して水質調査すると、パックテストの結果や生息している生き物の種類の調査から、水質がきれいであることが分かった。



さらに、GTの話等から、有明海に様々な珍しい生き物が生息しているのは、山の土壌から染み出た栄養が川をつたって、海に流れ込むからだということを学習した。

これらの学習をとおして、子どもたちは、森林を守ることが川や海の生き物や豊かな有明海の環境保全につながるという「山・川・海」のつながりを理解することができた。

子どもたちは、学んだことから海の環境を守るために自分たちにできることをグループごとにまとめ、川をきれいにするために生活排水を流さないこと、ごみを捨てないことなどを全校児童へ発信した。



○【6年生】竹を活用した環境保全

6年生は手入れをされていない放置された竹林が土砂崩れなどの原因になっていることを知り、校区にある竹林の現地調査を行い、竹林の根は浅いため、山崩れの原因になったり、広葉樹の森林と比較して土壌の栄養が少なく山の環境や海の環境に影響を及ぼしたりすることがわかった。

同じように放置竹林が多い八女市立花町では、竹を利用した様々な方法で竹を害ではなく資源として活用していることを知り、立花町の「立花バンブー株式会社」に見学を申し込み、市民が伐採して持ち込む竹から竹炭やせっけん、乾燥剤、消臭剤、肥料、建材、化粧品など実に様々なものに形を変えて人々の生活に役立てていることを学んだ。

そこで、校区の竹を使って自分たちにもできる利用方法を考え、竹で楽器をつくり、学習でお世話になった地域の方々や「立花バンブー株式会社」の皆さんをお招きし、学習発表会で竹太鼓を演奏して感謝の気持ちを伝えるとともに、天の原小学校の他の学年にも竹のよさや資源としての有効活用を発信した。



3 今後の活動計画

令和8年度は、E S Dにおいて、さらに海洋教育を柱に防災・減災教育についても体験活動や探究活動を充実させていきたい。そのために、①各学年で学習する内容を整理し、海洋教育や防災・減災教育の目指す資質・能力を明確にしながら系統的な活動内容の充実と、令和7年度までの実践をさらに深める。②SDG sの視点を子ども達に意識させる学習となるように、身近な「ひと・もの・こと」を活用した教材開発と、効果的な活用方法を探求する。さらに、様々な体験活動や協働学習を位置付け、子ども達が地域を愛し、未来に希望を持ち、主体的に活動を広げて、学んだことを様々な人々に発信できるような活動を展開する。